

# ご参考資料

## 銀行

**勘定系システム  
アイワイ銀刷新**  
日本ユニシスが構築  
アイワイバンク銀行は  
二〇〇六年をめぐりに、  
座管理などに使う勘定系  
システムを刷新する。日  
本ユニシスがシステムを  
構築、野村総合研究所が  
ネットワーク作りを手掛  
ける。新システムは二十  
四時間、三百六十五日の  
稼働が可能。災害時の復  
旧スピードが速まるほ  
か、コストも削減できる。  
現行は日立製作所のシス  
テムだが、契約期間終了  
に伴い、新システムに切  
り替える。

## アイワイバンク銀行

～2006年をめぐりに勘定系システム更改～

- ▶ システムインテグレーションをNRI、システム開発は日本ユニシスが担当
- ▶ NRIは2001年のアイワイバンク開業以来システム支援を行っている

2004年11月5日 日経金融新聞

## 保険



### e-JIBAI

~ 損保11社による自賠償保険の  
共同システムが11月に稼働 ~

- 損保11社共通紙による自賠償保険証明書の発行や申込み内容のデータ送信機能など
- 開発のとりまとめ、システム運用をNRIが担当
- 稼働後の共同システムの運営に関する協議会の事務局をNRIが担当

2004年12月13日号 日経コンピュータ



<p>野村総合研究所（NRI）、東京都千代田区、藤橋彰久社長は、既存のレガシーシステムをオープンシステムに移行する際に、ビジネスロジックを抽出、再構築できるマイグレーション・ソリューション「シタール（Sitar）」をこのほど提供開始した。</p> <p>「シタール」の開発では、マイクロソフト（東京都渋谷区、マイケル・ローディング</p>	<p>社長の「MIS・NRI上」、センサー・テクノロジー・リミテッド（インド・ブネ、ガネッシュ・ナタラジャ）のシステム分析・実装技術を用いるとともに、三社の協業による営業活動を推進する。</p> <p>レガシーマイグレーションは、メインフレームやオフコンなど、「レガシーシステム」で稼働する業務アプリケーションを、オープン系のプ</p>	<p>ラットフォームに短期間、低コストで移行するシステムソリューションであり、製造業、金融業などのレガシーシステムのユーザーから注目されている。新システムへの移行リスクを抑えつつ、システム構築費の低減を実現できることが要因。</p> <p>「シタール」では、既存システムのビジネスロジックを抽出し、プログラムを再構築（洗練化）した上で、新プラットフォームに移行するという画期的なマイグレーション手法を取っている。</p> <p>三社協業では、NRIが企</p>	<p>業システム全体を見据えたプロジェクト計画策定および実行、システム基盤構築、信頼性/性能/運用面の対応、プロジェクト管理、移行作業などを担当し、マイクロソフトがエンタープライズ向けの基盤テクノロジー/基盤ソフトウェアの提供を行い、また、センサーがシステム分析、オブジェクト指向技術によるシステム実装を行う。また三社は、マーケティングやセミナーなどを共同で行うなど、積極的な営業活動を通して、初年度三千億円の受注を目指す。</p>
---	--	--	--

## オープン化移行時にビジネスロジックを抽出、再構築 NRIが「シタール」

### 「Sitar（シタール）」

～保守性や拡張性を向上させるレガシーマイグレーション～

- 既存システムのビジネスロジックを抽出、プログラムを洗練化した上で移行
- マイクロソフト社および、センサー・テクノロジー・リミテッド（本社：インド）との協業

2004年12月15日 電波新聞

## コンサルティング



2005年1月4日 電波新聞

### 「ユビキタスネット社会の対応課題に関するアンケート」

～NRIが実施、総務省から公表される～

- 総務省が設置した「ユビキタスネット社会の実現に向けた政策懇談会」の下部組織と連携し、有識者アンケートを実施
- ユビキタスネット社会が抱える課題の、
  - 1)社会に対する影響の度合い
  - 2)対応の未熟さの度合い
  - 3)ユビキタスネット社会との関わりの度合いについて調査

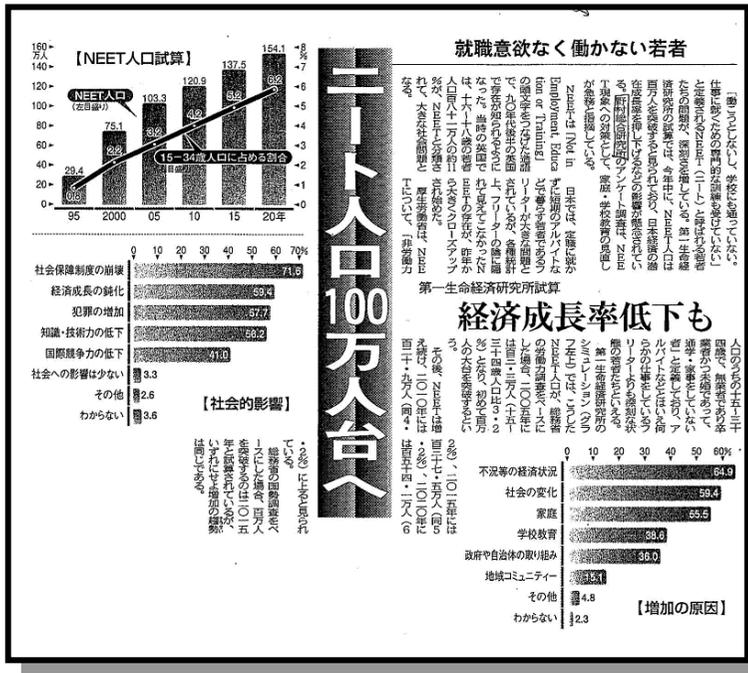
## コンサルティング

### ネットリサーチ ～ infoQの活用事例～

➤ インターネット上でのアンケート調査「infoQ」を利用し、リサーチを実施

- プロ野球への関心について
- 地震に対する危機意識
- 団塊世代の定年後
- 「ニート」増加への危機感

2005年1月11日 東京新聞



**プロ野球の関心 3割が「低下した」**

「プロ野球への関心は低下した」との回答が27.8%に上った。球団合併・買収をめぐる一連の騒動や大学野球の選手に対する金銭贈与スキャンダルなどで、イメージダウンは避けられなかったようだ。

一方、新球団の参入イギリス発足など、必要が、そのうち廣岡(回)り13.9%が「関心が高まった」と回答。また、「今季より来季の方が観戦する」との回答は18.0%で、特に、楽天が本拠地の仙台市を中心とした東北地方は38.8%と、地域別でトップだった。

今後のプロ野球に何か「魅力ある選手」の育成・発掘(49.5%)、「新規参入陣営の見直し」(46.6%)が続いた。一部の球団オーナーが強く主張した「リーグ制への移行」は3.3%にすぎなかった。

**東北には楽天効果**

2004年12月23日 東京新聞